

授業改善等に関する報告書（2024年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Learning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を探っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2024（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Academic English(SAクラス)	柳田 亮吾	<p>この授業は、次年度の卒業論文執筆を見据え、英語で書かれたアカデミックの文章の読解と論理的でわかりやすい英語エッセイの書き方について学びました。</p> <p>みなさんの評価をみると、全体的には肯定的な評価が多く、嬉しく思います。一方で、改善点に関するご指摘もいくつかありましたので、次年度以降の授業デザインに活かしていきたいと思います：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容について：教科書のリーディングの内容理解、問題答え合わせに終始してしまった感があり、反省しております。もう少し教科書プラスαについても授業でふれれるように、授業内容の設計をしたいと思います。 ・課題について：量が多いとのご批判を頂きました。英語でのライティング力を高めるのが授業の大きな目標なので、そのためには、英語でエッセイを書く、それを修正・確認する、修正したエッセイを独力でも書けるような、の3点は必須と思い、授業を展開しました。上記の目標達成のために、別のよい良い方法があるということでしたら、受講生のみなさんのご意見を頂き、修正したいと思います。
Academic English(SBクラス)	志渡岡 理恵	共通シラバス・習熟度別の科目だったが、課題に熱心に取り組む受講生が多く、自主的に学ぶ姿勢が身についているようだった。説明がわかりやすかつたというアンケート結果で安堵した。
Academic English(SCクラス)	島 高行	アンケートに答えてくれてありがとうございます。 これからも英語の学びを続けてください。
Comprehensive English b(SAクラス)	佐々木 真理	半年間、大変お疲れ様でした。 毎回スピーチや小テストと課題の多い授業だったと思いますが、皆さんいつも熱心に（土曜日の1限にもかかわらず！）取り組んでくださり、嬉しく思いました。2年生以降も、引き続き英語の勉強を頑張ってください。
Comprehensive English b(SBクラス)	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。テストの難易度についてなど、コメントを参考に改善をしていきたいと思います。他方、大学でまなぶ学術的な語彙の習得もできたようよかったです。また引き続き、自分のペースで学んでいきましょう。また他の授業でお目にかかるのを楽しみにしています。
Intensive Reading b(SAクラス)	志渡岡 理恵	英語の精読を行う2年生の演習科目。英文の内容把握だけでなく、読み取った内容から何を考えたかを言語化することを目指した。ハンドアウトを作成しての発表には差があり、授業内でかなり詳細なフィードバックを行なった。自信をつけた受講生もいれば、まだ慣れない受講生もいたようだ。
Intensive Reading b(SDクラス)	塩田 航希	<p>授業アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。それに基づいてフィードバックをさせていただきます。</p> <p>1. 集計結果に基づく検証 当該区分平均を下回る項目（「13. この科目（系・分野）をさらに学びたいと思いましたか？」と「14. あなたがこの授業で自分に成績をつけるとしたら、成績評価は何ですか？」）に絞って論じます。 そこで、直感に基づく仮説として13.に関しては「授業にネガティブな評価をしている学生ほど、英語の学習意欲が低い傾向にある」と考え、14.に関しては「授業の理解度が低い学生ほど、成績の自己評価が低い傾向にある」と考えました。 データ数は総じて少ないが、13.の回答が3または4の学生3名の評価に絞って確認をした結果、「授業に対してコメントがない場合、3を選択する傾向がある」ことが分かりました。 また、14.の回答が3または4の学生4名の評価に絞って確認をした結果、「授業の理解度は高いが、成績の自己評価が低い傾向にある」という逆相関が分かりました。</p> <p>2. 今後の改善方策の計画 上記を踏まえた上で、授業内で意見を生産する機会を増やします。そうすることで、アンケート等においても意見を断言できる人財に近づけるようにします。 また、授業の理解度が高いのであれば、控えめな自己評価を問題視する必要はないと考えます。</p> <p>3. 授業内で実施した工夫・取り組み、学生の要望に対する対応 「教員が頑張らないと、学生は頑張らない。」と考え、とにかくがむしゃらに全力で取り組みました。授業外でも数多くの質問対応などをしました。Paragraph Writing bのように何かもっとしてあげられたのではないか？と後悔していますが、下記のコメントのように一定の成果はあったのではと思っています。 「授業を受けて、もっと自主的に英語を学ぼうと思えました。」「初めて言った通り、今まで勉強を怠っていたので苦労しましたが、大学に入ってから初めて「授業を受けている」と実感できる授業でした！先生の説明はとてもわかりやすく、勉強が苦手な私でも理解できてとても嬉しかったです！ありがとうございました！」</p>
Paragraph Writing b(SBクラス)	島 高行	週二回で大変だったでしょうが、よく頑張ってくれました。

[2024（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Paragraph Writing b(SCクラス)	塩田 航希	<p>授業アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。それに基づいてフィードバックをさせていただきます。</p> <p>1. 集計結果に基づく検証 当該区分平均を下回る項目（「あなたのこの授業の欠席回数はどのくらいでしたか？」）に絞って論じます。 週二授業のため、他の授業とは欠席可能性が異なりますが、授業の欠席回数を改善することが求められるデータであることは間違いないです。 そこで、直感に基づく仮説として「授業にネガティブな評価をしている学生ほど、欠席する傾向にある」と考えました。 しかし、欠席回数が3回以上の学生7名の評価に絞って確認したのですが、例えば下記のコメントのようにネガティブな評価は一切なく、評価と欠席は無関係に思えました。 「休んでしまう回数が多かったが、出席した授業は、時間の流れが早いと思うほど為になる教えばかりでした。単位を心配してくれたり一人一人に向き合ってくれる先生は大学の教員あまりないので嬉しかったです。」</p> <p>2. 今後の改善方策の計画 上記を踏まえた上で、欠席は本人の体力や精神的なものが大きいのではと思います。 ある学生が休み続けた時、その友人の依頼で声掛けをしたのですが、欠席改善の効果は少なからずあったのかなと思います。「休みがちな学生と話をする時間を増やす」、今まで以上に心掛けたいと思います。</p> <p>3. 授業内で実施した工夫・取り組み、学生の要望に対する対応 「教員が頑張らないと、学生は頑張らない。」と考え、とにかくがむしゃらに全力で取り組みました。授業外でも数多くの質問対応などをしました。下記のコメントのように一定の成果はあったのではと思っています。 「最初の方に比べて、クラス全体が挙手を頑張っている印象を受けた。クラスの雰囲気が良くなっているということは発言数にも現れていて、みんなで授業を前向きに頑張ろうとしていることがわかり、みんなの成長を感じた。」「授業外でも相談に乗ってくれたこと、期待しているという言葉をかけてくれたこと、とても嬉しかったです。」</p>
Paragraph Writing b(SDクラス)	金田 迪子	<p>本年度の授業では、課題に対してできるだけ個別のフィードバックを行えるように心がけました。履修者人数が30人を越えるため、フィードバックの方法については、紙への書き込み、口頭でのインタビュー等、工夫をしていきたいと思います。この度は積極的に授業に参加下さりありがとうございました。</p>
TOEIC演習	柳田 亮吾	<p>この授業は教科書に沿いながら、TOEICの基本的な出題内容を理解し、語彙、文法、長文読解の力を伸ばすことを目的としました。 評価をみると、概ね肯定的な評価が多く、嬉しく思います。英文学科では毎年1回TOEICを受験し、その結果が次年度の英語系授業のクラス分けにも反映されるため、受講生の多くが、意欲的に授業に参加下さったかと思います。授業は教科書の内容について確認、解説し、少し時間をかけて答え合わせをしていく形を取りました。その結果、配信動画がかなり長くなってしまったのが、反省点です。ただ、答えのみを提示するというのでどれくらい学主効果があるのかという問題もあり、授業の進め方については、今後さらなる修正・改善をしてみたいとも思います。</p>
アメリカ文学・文化演習d	深瀬 有希子	<p>アンケートの回答をありがとうございました。みなさんのコメントを参考にさらに改善していきたいと思います。文学研究の醍醐味が少しでも伝わってようで本当に嬉しく思います。また他の授業でお目に書かれれば幸いです。</p>
アメリカ文学・文化演習f	佐々木 真理	<p>半年間、大変お疲れ様でした。 この授業を通して、アメリカの女性たちや、女性を取り巻く状況について理解を深めていただけたようで何よりです。</p>
アメリカ文学・文化講義d	稻垣 伸一	<p>多くの学生さんが熱心に授業に取り組んでくださっていることを小テストや授業へのコメントで感じていました。単にアメリカを知るだけではなく、この授業が自分たちが生きる社会についても考えるきっかけになってくれればうれしいです。</p>
アメリカ文学史b	佐々木 真理	<p>アメリカ文学について、関心を持っていただけたようで嬉しく思います。さまざまな文学作品を通して、社会や文化について、自分で調べ、自分で考える、ということに、これからも取り組んでみてください。</p>
イギリス文学・文化演習h	土屋 結城	<p>この授業では19世紀イギリス社会を絵画から読み解くテキストを読み、19世紀イギリス社会についての理解を深めることを目的とした授業である。「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4.78~4.91の評価を得た。概ね、授業の内容や目的に関しての理解は得られたと思う。今後の課題としては、事前事後学修の充実やさらなる英語力の強化が挙げられる。事前事後学修については、manabaをより効率的に使ったり、参考文献をより手厚く紹介するなどして改善を図りたい。英語力に関しては、授業中のアクティビティなどの改善によりさらなる強化を図りたい。</p>

[2024（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
イギリス文学・文化講義 b	島 高行	毎回のレポート、それぞれ興味深く読ませてもらいました。
イギリス文学・文化講読演習 b	志渡岡 理恵	4年生の講読科目ということで、かなり高度な研究書を選んだが、受講生の発表は素晴らしく、難しい用語や概念を具体化して理解しようとする姿勢が見られた。できるだけ詳細なフィードバック・補足説明を心がけたが、わかりやすかったというアンケート結果で安堵した。
イギリス文学史 b	土屋 結城	18世紀以降のイギリスの文学についての理解を深めることを目的とした授業である。授業アンケートでは「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.64～4.86の評価を得た。オンデマンド形式での授業で、毎回動画を配信し、小テストで課す課題に取り組んでもらったが、授業形態、内容に関して、一定の理解は得られたように思う。今後の改善点としては、オンライン授業での双方向性の確保が挙げられる。manabaの個別指導を用いたり、学生のコメントを丁寧に紹介したり、参考文献を手厚く紹介するなどして改善に取り組みたい。
グローバル英語圏文化への招待 b	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。皆さんのコメントを参考に改善に努めていきたいと思います。広い意味での「アメリカ」という概念の理解ができたようよかったです。またさらに、グローバル英語文化圏について深めていきましょう。
ブック・セミナー	柳田 亮吾	この授業では、英文学科の3つの専門的な学びに関する新書を3冊読み、内容理解を深めつつ、書評を書くことを目的としました。受講生の数が少なかったのは残念ではありました。その分、受講生との密な対話を通じて、内容理解をより深められたのは良い点だったかと思います。評価をみると、全体的に肯定的なものが多く、嬉しく思います。来年度の授業をよりよくするために、さらなる微修正・改善をしていきたいと思います。
英語学演習 b	猪熊 作巳	人数が少ないためかなりの頻度で発表担当が回ってくる授業でしたが、毎回しっかりと内容に取り組む姿勢が強く感じられました。来年度の卒論研究でもその姿勢を生かしてくれることを期待します。
英語学演習 d	野村 美由紀	概ねこの授業に満足できたよう良かったです。毎回の小テスト課題は、皆様、よく頑張って提出して下さいました。遅刻や早退、授業途中の長時間不在はこちらでチェックして、減点対象としております。
英語学概論 b	村上 まどか	標準的な集計結果と意見かと思いますが、1割の回答率だったので、これが全体像を呈しているとは言えません。教材の使いまわしについては、古いといつても2020年からですし、重要事項は変わらないので、当分このまま行なうと思います。
英語学講読演習 b	村上 まどか	試験終了後にその場で呼びかけたにもかかわらず、9人中4人しか回答してくれなかつたのが、少なからずショックです。みなスマホを取り出して操作していたのに、別のことをしていましたのでしょうか。オンデマンドで講読演習の授業をするのは難しかったのですが、みなよくついてきてくれました。（でも、評価はやはり割れましたね。）
英文入門ゼミ(CAクラス)	佐々木 真理	半年間、大変お疲れ様でした。2年生以降への導入となるこの科目を通して、英文学科での学びの目標を明確にしていただけたら嬉しく思います。
英文入門ゼミ(CBクラス)	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。皆さんのコメントを参考にさらに改善していきたいと思います。レポートの書き方の基本が理解されたようよかったです。二年生の授業でもさらに深めて学んでいきましょう！
英文入門ゼミ(CCクラス)	土屋 結城	大学での学びの入口となる授業だが、「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.59～4.82の評価を得た。概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。今年から英文学科全体で内容を見直し、論理的な文章の読解とレポート作成に焦点を当てた授業を実施したが、今後の改善点としては、双方向性をより高めるために、グループワークやレポート準備の段階から積極的にコミュニケーションを取り、一方的な説明を行うだけにならないように、学生のアクティビティを充実させながら授業を進めいくことが挙げられる。
英文入門ゼミ(CDクラス)	稻垣 伸一	少し難しきめのリーディング教材も合ったと思いますが、多くの学生さんが真剣に取り組んでくださっていることをレポートや授業後のコメントで感じていました。この授業で学んだことを今後の授業に活かして、どうか有意義な大学生活を送ってください！

[2024（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
英文入門ゼミ(CEクラス)	猪熊 作巳	グループワークや協働制作に取り組む時間がなるべく多くなるよう進めましたが、学生一人一人が主体的に取り組む姿勢が見られ、来年度以降の学修が楽しみに感じられました。
言語学への招待	猪熊 作巳	オンデマ授業の宿命か欠席数が多くなりがちでしたが、最終課題はそれに工夫された、学生個々人の人柄が伝わるものが多く、担当教員としても楽しく向き合えました。
言語習得論	猪熊 作巳	学期後半はかなり抽象度の高い、理論的な事項を取り上げましたが、意欲的に取り組んでくれる学生が多い印象でした。期末課題でも工夫を凝らした読み応えのあるレポートが出そろい、来年度の卒論が楽しみです。
時事英語演習	野村 美由紀	授業内容の理解の助けとなるように毎回プリントを作成しておりましたが、わかりにくい面があったようですので、もう少し全体の流れがつかめるように説明するように心がけたいと思います。 毎回の小テストの課題をよく頑張って提出して下さいましたのは良かったです。小テストでは授業内容の復習と語彙増強を目指して実施しております。
女性と英語圏文学b	志渡岡 理恵	オンデマンド科目だったが、説明がわかりやすかったというアンケート結果で安堵した。課題に熱心に取り組む受講生が多く、レポートは読みごたえがあった。
世界の英語	柳田 亮吾	この授業では、教科書の内容に沿って、社会言語学の基礎について学びました。 進め方や内容は例年通りだったのですが、評価は例年よりも低く、反省の残る結果となりました。みなさんのコメントを拝見すると、肯定的な評価と否定的な評価の両方がありました。何が大きな問題だったのかは書かれていませんでした。改善点についても是非忌憚のない意見をお願いできれば幸いです。 以下ご意見に対するお答えです： ・オープニングが長かった：授業で取り扱う内容が複数回の授業にまたがる時は、前回のおさらいをしていたのですが、オンデマンド授業と言うことを踏まえると、復習は最小限でよかったですかもしれませんね。 ・レポート課題の期間が短かった：今年は学年歴の関係もあり、レポート課題②に取り組んで頂く時間が短くなってしまいましたね。もう少し早めに告知すればよかったですと反省しております。
卒論セミナーb	土屋 結城	大学での学びの集大成となる卒業論文に向けての授業だが、「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で5.00の評価を得た。概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。今後の課題としては、アンケート回収率の向上と事前事後学修の充実が挙げられる。アンケート回収率の向上のために、授業時やmanabaでの告知を徹底していきたい。事前事後学修については、学生に課している課題の内容や授業での発表内容を再検討することが挙げられる。具体的には、卒論の向けてのリサーチを早い段階から進められるように課題や授業の内容を見直したい。
卒論セミナーb	志渡岡 理恵	卒業論文の完成を目指し、後期は個人面談と中間発表を交互に行った。受講生はみな熱心に資料を読み込んで考察を重ねたと思う。言語化に苦労した受講生もいたが、成長を実感できたようで嬉しい。
卒論セミナーb	佐々木 真理	一年間、大変お疲れ様でした。自分で調べ、自分で考えることの大切さを、卒論の執筆を通して学んでいただけていたら嬉しく思います。
卒論セミナーb	島 高行	皆さん、よく頑張って卒論に取り組んでくれました。

[2024（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論セミナー b	難波 雅紀	<p>前期の「卒論セミナーa」では、卒論のテーマや題材を確定させ、論文の構想・構成を各自で練り上げることに取り組みました。後期の「卒論セミナーb」では、練り上がった論文の構想・構成をより具体化し、卒論の目次をまず作成しました。その上で、目次に沿うような流れで論文原稿の執筆と推敲を重ねていきました。ひとり10回程度の個人指導を行ない、最終的な卒論完成に至りました。</p> <p>卒論作成に係わって多くある誤解は、原稿を書くという行為が作業全体の大半を占めるというものです。原稿用紙換算で60枚以上になる文章をひとつのテーマで書くためには、事前に、テーマと題材の結びつけ方、それを具体的に論じていくストーリーを入念に立て、それに係わる資料の収集と整理を十分に行なう必要があります。そして、実はそれに費やす時間や労力の方が、文章を書く行為に割くよりも圧倒的に多いのです。卒論作成を首尾よく進めるためには、まずこの事実をしっかり認識しなければなりません。</p> <p>そういうわけで、書く前提として不可欠な上記の作業にあまり重きを置かなかった学生は、実際に文章を書いているうちに、何をどう書けばいいのか分からなくなってしまい、立ち止まってしまうことが多かったように思います。文章を推敲したくても時間がなかつたのではないかと思う。</p> <p>書くということは、自分の語彙で自分の内面や考えを上手く他者に伝える、人間にとての必須の手段です。言葉には僥幸脆弱面もありますが、そのことを分かって丁寧に、誠意を込めて書くことが大切です。</p>
卒論セミナー b	村上 まどか	肯定的な意見と否定的な意見の両方を受け、人によって感じたはさまざまだと改めて思いました。社会人になってもお元気で。
卒論セミナー b	猪熊 作巳	多くの学生が意欲的な（つまり難しい）トピックに挑戦しました。苦労したと感じている学生も多いかもしれません、その分非常に充実した卒論が揃ったと感じます。
卒論セミナー b	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。充実した卒業論文ができてよかったです。卒業後もご自身の気持ちを大切にお過ごしください。また何かの機会でお目にかかるれば幸いです。
卒論セミナー b	稻垣 伸一	全員がほぼ毎週面談をして真剣に卒業論文に取り組んでくださったと感じています。アメリカの文学や歴史についての勉強はこれで終わりかもしれません、卒論を執筆する過程で学んだ論理的な文章の書き方がこれから的人生で役立てばうれしいです。
卒論セミナー b	柳田 亮吾	卒業論文は4年間の学びの集大成なので、多大なる時間も労力が必要だったと思いますが、ほとんどのみなさんがよく頑張られたと思います。評価をみると真摯に取り組まれた方は肯定的な評価を下さったようで、嬉しく思います。来年度も微修正しながら授業を進めていきたいと思います。